

法律等に準拠する業務
金融機関が取り扱う商品はお金です。お金には色がなく、

金 金融機関は、お客様の大切な資産を預かっています。また金融機関には、資金決済という重要な業務も与えられています。その業務の信頼性を維持するため、金融機関では毎日勘定の「締め」をもって、日々の業務を完結させてミスがないか確認しているのです。
金融機関の業務はほとんど、数字に関わる仕事です。数字で管理し、1つひとつを正確に完了させなくてはならないわけです。

どうして勘定を毎日締めなければならないの？
重要書類がたくさんあるのはなぜ？



Q12

個々のお金を個別に所有するに
は、お金を占有するしかありません。このように不明確なモノの所有を明示する手段として、契約や法律があります。

これが回答！

お客様の資産を確実に管理するため、毎日勘定締めを行います

金融機関の責務の現れ
この再鑑の存在には以下の理

伝票を必ず2名以上でチェックするのはなぜ？



Q13

由があります。
・正確な事務取り扱い
・不正の防止
・相互牽制
再鑑制度は、金融機関が行職員を信用していないから実施されているのではなく、お客様の大切な資産を預かっているからこそ、行われているのです。

これが回答！

正確な事務取り扱い、不正防止といった観点から再鑑を行っています

どうして事務ミス排除の徹底が謳われているの？



Q11

Q 10でも触れましたが、金融機関はいち事業法人という立場と、資金決済や信用創造といった社会インフラという2つの役割を担っています。
社会インフラである以上、行いを誤ったときの影響は自行庫だけにとどまらず、社会インフラ

ラを利用しているシステムにまで波及しかねません。したがって金融機関においては、事務ミスは「許されない」ものではなく「あり得ない」ものという位置付けになっているのです。
皆さんの所属する金融機関でも、事務の取扱方法が詳細に決められ、規則化されているはずです。あらゆる事態を想定しシミュレートして、規則が作成されているのです。
しかしそれらの規則に、ミス

をした対処方法は記されていないはず。なぜなら、前述のように「ミスは発生しない」という考え方に基づいて作成されているからです。
自己資本比率にも影響
金融機関がここまで事務に重きを置いてこれたのは、かつての「護送船団方式（金融機関全体の存続と利益を実質的に保証する、戦後日本の金融行政）」による行政指導の名残りもあり

ます。行政から護られた立場にあった金融機関において、事務ミスを犯すということは、社会に対する信用をなくすだけでなく、監督官庁からの信頼をも裏切ることを意味していたのです。
また銀行の自己資本比率を計算する際、国際統一基準ではオペレーショナルリスクを経営指標に組み込んで評価しています。このことも事務ミスを排除する理由の1つです。

●ここが回答のポイント！

